

エコアクション21
環境経営レポート

2023年度〔2023年6月-2024年5月〕

有限会社 藤本プラスチック工業

2024年8月31日

1. 会社概要

- (1) 会社名 有限会社藤本プラスチック工業
- (2) 代表者 藤本孝純
- (3) 住所 神奈川県相模原市緑区佐野川3392
- (4) 環境管理責任者 藤本 孝純
TEL : 042-687-2180 FAX : 042-687-2602

(5) 沿革

昭和57年6月 個人事業藤本プラスチック工業所設立
一般工業プラスチック部品の製造開始
平成10年7月 有限会社藤本プラスチック工業に法人化

(6) 営業種目

プラスチック成形加工

- 機構部品 ・通信関連
外観部品 ・自動車、つり部品
・電気部品
・住宅用機具

プラスチック金型設計・製作

(7) 主要設備

射出成形機 100t 1台
80t 1台
50t 1台

トラバス、温調機、ドライヤー、粉砕機、コンベアー、その他

(8) 事業規模

活動規模	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
主要製品生産量	ton	15.4	5.5	4.8	2.5	2.7
従業員	人	5	5	3	2	3
敷地面積*	m ²	800	800	800	800	800
床面積*	m ²	250	250	250	250	250

*年度期間は6月～翌年5月まで

環境活動に関する連絡先

代表取締役 藤本 孝純

TEL : 042-687-2180 FAX : 042-687-2602

2. 環境方針

(有)藤本プラスチック工業環境経営方針

基本理念

“地球にやさしい”をモットーとして環境保全に取り組み、自然との共生・調和を目指し、社会と地域に対し責任を果たします。

行動方針

当社はプラスチック部品製造業として、事業活動が及ぼす地球環境への影響を把握し、環境保全に貢献します。

- 1、 資源の無駄をなくし、省エネルギー、廃棄物削減、節水、有害性物質排除に努めます。
- 2、 事業活動に関連する環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 3、 環境問題の社会的意義を考慮し、従業員一人一人の環境問題に対する意識向上を図ります。
- 4、 環境活動を進めるために環境経営システムを構築し、目標・計画・体制・手順などを継続的に改善します。

この環境方針は、外部からの要求に応じて開示します。

改訂 2022年9月9日

改訂 2011年6月1日

(制定 2007年5月1日)

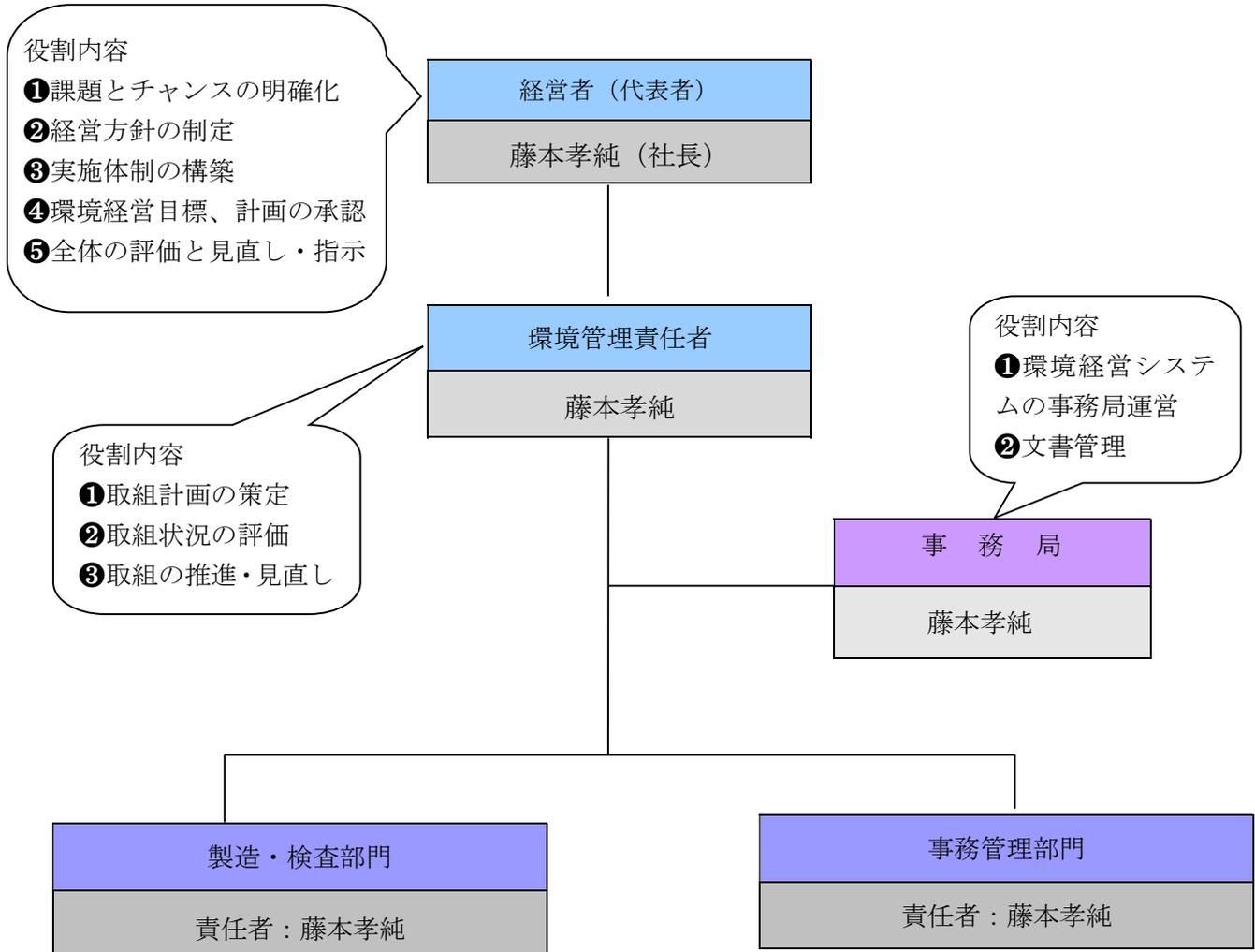
有限会社 藤本プラスチック工業

代表取締役 藤本 孝純

3. 実施体制

(有)藤本プラスチック工業 環境管理組織

(2022年8月現在)



主要業務	プラスチック部品製造、検査
主な環境取組	電力消費量削減 運用の改善・管理

主要業務	事務、出荷
主な環境取組	紙資源の節減 基準作成、管理

4. 過去3年間の環境負荷の状況

主要環境項目：2020 年度-2022 年度

環境への負荷(指標及び種類)		単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
			2020.6- 2021.5	2021.6- 2022.5	2022.6- 20232.5	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2	20,811	14,310	11,868	
② 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再資源化	t	0.074	0.060	0.019
		焼却	t	なし	なし	なし
	産業廃棄物	再資源化	t	0.093	0.026	0.035
③-1 総排水量	公共用水域	m3	3600	3600	3600	
	下水道	m3	220	172	108	
③-2 水使用量	上水	m3	220	172	108	
	河川水	m3	3,600	3600	3,600	
④ 化学物質使用量			(微量の潤滑油、防錆剤類を除いて) 化学物質を使用していない			
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	400,396	270,089	219,799	
	化石燃料	MJ	29,705	24,081	22,933	
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	5.5	4.8	2.5	
	循環資源使用量	t	0.09	0	0	
⑧ 総製品生産量または総商品販売量	製品生産量等	t	5.5	4.8	2.5	
	段ボール使用量	kg	173	124	9.3	

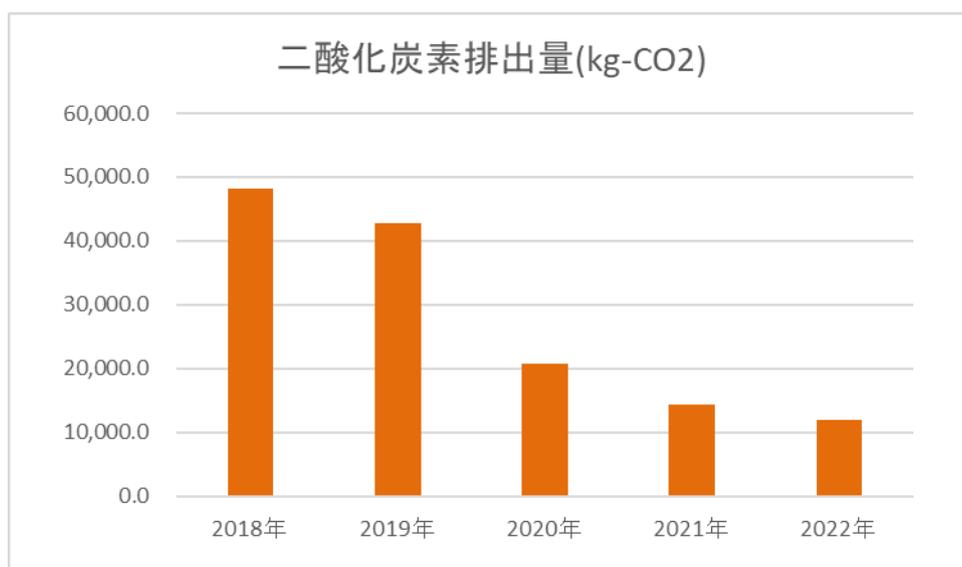


図 二酸化炭素排出量の年傾向
(購入電力のCO2 排出係数：0.462kg-CO2/kWh)

5. 中期環境目標、活動計画

5.1 中期環境目標

* 基準値は2022年度(2022.6～2023.5)とする。

①設定2023年8月18日

目的	項目	基準値 2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標
温暖化防止 (二酸化炭素 の排出抑制)	二酸化炭素排出量削減	11.9 t-CO2	11.8 t-CO2	11.8 t-CO2	11.8 t-CO2
	省エネルギー 電気消費量の削減	電力使用量 22,360 kWh	電力使用量 0.5%削減 22,248.2 kWh	電力使用量 0.5%削減 22,248.2 kWh	電力使用量 0.5%削減 22,248.2 kWh
	ガソリン使用 量の削減	使用量: 662.8 L	使用量 662.8 L	使用量 662.8 L	使用量 662.8 L
省資源化 (段ボール箱購入量の削減)	納入資材の削減	納入資材: 133.3 kg	納入資材1% の削減 132.0 kg	納入資材1% の削減 132.0 kg	納入資材1% の削減 132.0 kg
水質汚染防止、 資源有効利用	上水使用量の削減	使用量: 108 m ³	使用量0.5% の削減 107.5 m ³	使用量0.5% の削減 107.5 m ³	使用量0.5% の削減 107.5 m ³
排出量の抑制	産業廃棄物の削減	排出量: 19 kg	排出量1% の軽減 18.8 kg	排出量1% の軽減 18.6 kg	排出量1% の軽減 18.4 kg
リサイクルの促進	一般廃棄物の分別		ゴミの分別徹底	ゴミの分別徹底	ゴミの分別徹底
環境取組の推進・向上	業務品質の向上、 効率化(ムダを排除し、 業務質のレベルアップ)		1)整理・整頓・清掃 2)業務改善の提案推進	1)整理・整頓・清掃 2)業務改善の提案推進	1)整理・整頓・清掃 2)業務改善の提案推進

これまでの取組みをふまえて、環境負荷量の目標設定は前年度以下として設定した。

購入電力の二酸化炭素排出係数=0.462kg-CO₂/kWh(東京電力エナジーパートナーズ 2018/12/27 公表値)を使用した。

5.2 活動計画(2022年度)

	項目	担当部門	実施方法
1.1 省エネルギー・ 省資源	消費電力削減	製造部門 事務部門	1)冷暖房温度の管理(夏期 28℃ 冬季 24℃、チェックリスト仕様) 2)無人時の照明管理
	ガソリン使用量削減	運搬	省エネ運転
	段ボール(納入資材)の使用量削減	製造部門	通箱の推進(数、回数)
	上水消費量削減	全体	蛇口付近に節水ポスター等
1.2 成形加工事業の 高度化	製品品質向上	製造部門	不要物の混入防止(PR) 生産工程管理
	消耗品・資材の適正利用	製造部門	使用量の把握
1.3 廃棄物の削減	産業廃棄物の削減	製造部門	1)成形機の効率的でムダのない運転を行う 2)生産工程管理
	一般廃棄物の削減	全体	1)コピー紙は裏紙利用 2)ごみを持ち込まず、個人発生ごみは持ち帰る
1.4 大気汚染防止	温暖化ガス排出防止	全体	エアコンの目視点検、汚れの除去
2.1 環境マネジメントの基礎的活動	教育・説明・勉強会	全体	社員全員に対して教育・説明を行う
	5Sの取組	全体	社員全員に5S 資料配布及び掲示
	緊急事態対応訓練	全体	1)避難路、消火器の点検 2)避難訓練
2.2 地域への環境配慮	騒音防止	製造部門	1)機器の維持点検 2)建物・壁の点検・維持 3)自動車の点検、運転マナー遵守

6. 2022 年度環境目標達成状況及び環境活動計画の実施状況

当社の環境年度は 6 月から 5 月までとしている。2022 年 6 月～2023 年 5 月の12ヶ月間の活動内容を評価した。実施結果を以下に記載する。

No.	2023 年度 環境目標	目標達成度	評価	2023 年度 環境活動計画	評価	次年度の取組
1	二酸化炭素排出量 11.8 t-CO2	二酸化炭素排出量 108.3% 12.8 t-CO2	△	下記による	-	下記の取組み
2	電力使用量 22,248.8 kWh	電力使用量 目標に対し 108.8% 24,209 kWh	△	冷暖房機の温度管理、 照明の管理 デマンドコントロールで の電力監視 成形機の運転管理	○	引き続き実施 *照明の監視 *扇風機の増設 (風の循環)
3	ガソリン使用量 662.8 L	ガソリンの使用量 目標に対し 104.6% 693.1 L	△	納品回数の抑制 燃費管理(運転管理表)	○	取引先との納品 回数週一回に目 指している(営業 的なことは別)
4	納入資材 132.0 kg	ダンボール使用 量:目標に対し 3.1% 3.1 kg	○	納入箱の再利用	○	引き続き実施
5	産業廃棄物排出 量 18.8 kg	産業廃棄物排出量 目標に対し 202% 38.0kg	×	生産工程の取組(淡い色 から濃色へ順次変更) 新製品開発の試作によ る廃棄の増加	○	工程管理の実施 廃材の抑制 ページ回数の抑 制
6	一般廃棄物の分 別徹底	一般廃棄物排出 量 43.0 kg	○	紙くず、空缶、ペットボ トル、ビニール類(材料袋) を分別し再資源化	○	*材料袋の 1 部は 再利用*コピーの 裏紙利用
7	上水使用量 107.5 m ³	上水使用量 121 m ³	×	従業員及び家族への啓 蒙	○	家族での使用が 含まれる
8	業務品質の向 上、効率化	整理・整頓・清掃	○	整理・整頓・清掃の実 施	○	継続する

達成度評価の記号：

◎：100%以上 ○：99～95% △：94～90% ×：89%以下

ガソリン使用量原単位及び廃棄物排出量が悪化した原因：

納品回数増加によりガソリンの増加、新製品企画のための試作回数の増加により廃棄量増加となった。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示、今後の取組

7.1 代表者による評価と見直し・指示

イ) 取組状況全般

環境保全の取組みは定着している。環境負荷をいっそうの低減に向けた意識を高める活動を始めている。一方、法規制に対して適正な時期に必要な書類の提出が出来てないので注意しなければいけない。

ロ) 次年度に向けての代表者見直しの要旨

今後は品質及び生産性向上を目指し、3定・5Sを基本とし、工程管理の手順（書）の整備を図り、一人ひとりが意識を持ち行動する。

7.2 次年度の主な取組内容

前年度の計画に盛り込んだ実施事項を基本に改善を進めます。

2022年度の主要課題は以下の通りです。

- ① 受注の変動に対する対応(生産計画、不良及び廃棄物発生の予防、手順確認など)
- ② 3定・5Sの取組
- ③ 電気使用量の削減

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物、騒音、消防、及び車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。関係機関等からの指摘もありません。また訴訟、苦情に関しても過去3年間ありません。